

◆通所介護ナイス・デイ◆訪問介護ナイス・ケア◆小規模多機能型居宅介護ナイス・ホーム◆住宅型有料老人ホーム愛宕の家◆有料職業紹介つしま紹介所◆学童・託児ナイス・キッズ◆喫茶てのひら



発行元：株式会社サポート・ワン・サービス
愛知県津島市愛宕町四丁目113〒496-0036
代表TEL：(0567) 26-3921
FAX：(0567) 26-3922
ホームページ <http://www.s-o-s.co.jp>

《利用状況 案内板 (★募集中★満員)》

★ナイス・ケア **利用者さん大募集♪**

★ナイス・デイ (定員 10名)

日	月	火	水	木	金	土
8	7	7	8	6	8	8

★ナイス・ホーム(定員 25名、登録者 17名)

★愛宕の家(定員 17名中入居者 15名)

★つしま紹介所

★ナイス・キッズ
(平日、下校後の利用のみ募集中)

～参考にご利用下さい～

《教室案内》

・和太鼓 月曜日(年間 35回)

場所：愛西市川瀬コミュニティ

・コーラス 水曜日(月 2回)

場所：喫茶てのひら

・バスケット金曜日(月 2～4回)

場所：藤浪中学校体育館

※職員やキッズ達の趣味活動を兼ねて各教室を発足。地域の方々にも参加していただけます。各教室月謝制で、定員あり。詳細はお問い合わせ下さい。

《4月行事予定》

上旬 桜の花見

10日 外食DAY

20日 避難訓練

27日 いきいきサロン

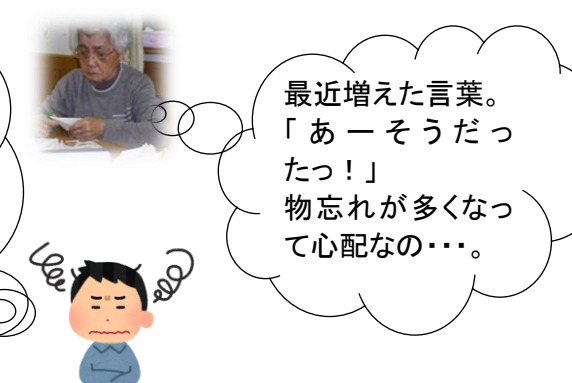
30日 誕生日会

《不定期行事》

天気や意欲等で状況判断し、外出先一覧を参考に社会生活に参加します。

今日は本音を言おうじゃないか！

口頭で構わないから契約の時に異性による介助(特に入浴)の可能性があることを説明して欲しかった。介護事業所にとっては当たり前かもしれないが、私には分からないことがいっぱいある。



地域密着型通所介護となりました。/SOS

法改正の流れで、4月1日からナイス・デイは地域密着型となりました。今後は、(残念ながら)津島市在住の方しか利用登録できません。3月末に喫茶てのひらに来られたお客さんから『この事業所のパンフレットが欲しい。今後、自分達のためにデイサービスを考える必要が出たときの参考にしたい。ここは少人数だし、自宅からも離れているから理想だな。』と言われました。「実は、4月からは介護保険改正のため、定員18名以下のデイサービス事業所は全て、同市に住んでいる方にしか利用してもらえなくなりました。」と泣く泣く伝えました。『家の近くの事業所に評判の良いところが無いしあまりにもご近所では気まずくなることもあるかもしれない。程よい距離の事業所を探していたけど・・・利用者の選択権を狭くするなんて!!』

小規模多機能型居宅介護(ナイス・ホーム)のような制度であれば、地域密着型として運営することの利点も分かりますが、通所介護に関しては、明らかに制度を作る側・管理する側にとって都合の良い観点での改正としか思えません。とは言っても私達も介護保険制度に則って運営している以上、どのような制度内容になろうか・・・乗っかる?流される?しかないのも実態です。(A. I)

職場実務教育訓練(OJT)を始めてます

利用者さんや入居者さんがよく発する言葉がある。「お尻が痛い」「寝かせて」「起こして」「おーい、おーい」。

この言葉は何を訴えているのか。なぜお尻が痛いのか、寝かせてほしいのか、起きたいのか、おーい、おーい・・・その言葉の後に何がくっついているのか。どのタイミングで何を求めているのか。その人の気持ちやその人のタイミングを深く読み取ることがスタッフに求められる。

まずは気持ちをどんどん訴えられる環境を作りたい。そしてその言葉を受け止める受け皿を作り続けたい。言葉を聞いているつもり・・・でも日常は“つもり”で終わっているのかもしれない。“つもり”で終わらせないためには自分たちが体験することが一番の近道である。4月のOJTでは、スタッフに不自由な身体状況や環境を作りその身になった日常体験ができる取り組みをしてみようと考えている。(H. O)



写真は社内での認知症研修の様子

誰かを助ける/ナイス・キッズ

私・・・アキレス腱断裂しました。2月末日の話。入院手術の後から松葉杖生活が始まった。不便である。両手に何も持てない。

苦肉の策であるリュックサックが手放せないの言うまでもない。足に加重がかけられず介護職員としては失格で休職中。身を持って余した結果、運動不足を解消すべくボランティアを名乗り出てキッズと過ごしていた。

《子ども達の反応》

どうやって物を運ぼうか考えていると、「もってったるわ」と運び役を買って出てくれる。

雨の日どう移動するか考えていると「傘さしたるわ」と移動に付き合ってくれる。

乳児キッズの子守も嫌がらずに皆で交代しながらやっている。

何事につけ・・・準備や片付けも怒らなくても手伝ってくれるのであつという間に終わる。今まで私は「頼むより自分が動く方が早い!子供達はどーせ動かん!」と思い込んで動いていた。動けなくなった今、色々なことが見えてきた。今この状況になったから、色々気が付いて優しくなったのではなく、今までずっと、声を掛ければ子ども達なりに動いてくれたのだろう。私は、いったい何を見ていたんだろう・・・。以前にも書いたことがあるがキッズ達の優しさはホントに自信をもって自慢できると再認識させられた。(R. W)



一期一会/ナイス・デイ

3月、数年前にナイス・ケア(訪問介護)を利用されていた方の家族さんから相談の電話があった。期間が経っていたので最初は「・・・?」と思ったが、話を聞いているうちに、(当時は私も訪問介護を担当していたため)当時の様子を思い出し懐かしく思い声をかけてもらえることに感謝。

「小規模で家庭的。アットホームな雰囲気だったから」と記憶していて、今回は「デイサービスを利用できないだろうか?」と、相談の電話を直接くださったとの事。

『何ともありがたい話です。嬉しい限り・・・。ですが・・・残念ながら4月の法改正で住所が津島市の方以外に新規でご利用いただくことが出来ないのです。』とお断りするしかなかった。本当に残念ですが利用へは繋がられません。

春は別れと出会いの季節。

ナイス・デイも新たに地域密着型デイとなるが、少人数でアットホームであたたかい笑顔の耐えないデイサービスを今後も守り続けていきたい(M. O)



「家に帰ります」(続)/ナイス・ホーム

先月の続編。

暖かくなり、Yさん夫婦の体調も安定してみえた3月末、念願の自宅で過ごす練習がスタート。奥様の心配は、Yさんがミキサー食であるため、自宅での食事準備。そこで、初回はヘルパーと一緒に昼食時に帰宅。奥様はベテラン主婦、ヘルパーの助言をすぐに理解しYさんの大好きな納豆が食卓に並びました。久しぶりの夫婦の食事。Yさん夫婦のゆっくりした時間が流れていました。

「きっと入院前はこんな風に穏やかな時間が流れていたんだろうなあ～。」

『次のステップは?』

日中は自宅で過ごし、その時間内にヘルパーが訪問。夕方には家族がナイス・ホームへ送り込み泊まりのみを利用するという試み(通いと泊まりの臨機応変な利用)の計画で実行中。帰宅手段には介護タクシーを利用し、自宅の中までの移動見守りを依頼しています。(地域資源の活用ね♪♪)小規模多機能型居宅介護の“多機能”とは、事業所内だけでなく地域の力も活用していくことが求められています。そしてそれは何より、利用者さんや家族の方々が生きている地域社会との繋がりを大切にする仕組みとなります。

日中、安心して自宅で過ごすことができた次は夜間も過ごしてみましょ。自宅で過ごせるための試み。奥様の手助けを受けながら、出来る限り早く&安心して自宅中心の生活が送れるよう温かく見守り、関わっていきたく思います。(Y. O)



《編集後記》 3月から事務所の模様替えをしています。

『顔が見える連携』と介護の場面でもよく耳にしますが、各部署のスタッフ同士もしかり。また、事務と現場スタッフも同様。いつでも顔を合わせられる環境が必須だと考える。情報もスタッフ個々が取り入れやすいように・・・などなど、いろんな願いを込めて大改革中です。

社内研修やカンファレンスも事務所で出来れば通り過ぎるスタッフも耳を傾けることでしよう。まだ雑然としているので立ち寄られた方々には失礼致しますが・・・何卒ご了承ください。(Y. O)

ひとり歩き/愛宕の家

認知症高齢者の徘徊(ひとり歩き)による列車事故の判決が下ったのは記憶に新しいと思う。家族に賠償責任は問われなかったものの、果たしてこれが介護施設等の利用中の事故であったらどうだろう。現在、愛宕の家にも帰宅願望が強く、且つ足腰の達者な入居者さんが数名みえる。

ひとり歩きする方は、ただフラフラする訳でなく、各々ちゃんと目的がある。愛宕の家では夜間は防犯の為に施錠しているが、昼間は基本出入り自由。

なので、ひとり歩きをしたい方には、ことさら気を配る。ソワソワしていると感じたら一緒にお茶を飲んでじっくりお話をしたりとその様子で。それでも、隙を突いて外へ出てしまうことがあると、すぐに各部署、連携をとりながらまずは施設内を捜索。外出された場合、時には思う存分一緒に歩いて愛宕へ帰る。

一人外出対策として、カギをかければよいと言う方もいるかもしれない。しかし、それでは外へ出たいと言う欲求はどうなってしまうのだろう。

命を預かる立場としてどうすべきか悩む。しかし、その中で気づいた事・・・。ご近所の方や、通りすがりの方から気にかけてもらい助けられた。人との関わりが希薄になったと言われる昨今、世の中まだまだ捨てたもんじゃない。(K. T)



文と写真は関係ありません

SOS通信はホームページへの掲載と合わせ、地域の関係者や事業所、ご家族様へも発送しています。4月の発送部数 75部